

# クローバーつうしん

CLOVER TIMES



2023年1月1日 第59号

公益財団法人 金森和心会

クローバー子供図書館 / 発行

〒963-8851 郡山市開成6-346-1

TEL/FAX 024-932-2118

<http://www.k-washinkai.or.jp/clover/clover.html>

## 「絵本と共に」

針生ヶ丘病院

発達心理課 柳沼 さとり

明けましておめでとうございます。  
今年一年が皆様にとつて、健康で心豊かな一年となりませうお祈り申し上げます。

私には三人の息子がいます。上から23歳、21歳、19歳とおかげさまで体も心も大きく育ちました。歳の近い男の子三人の子育てはとても忙しく、特に保育園時代は分刻みのスケジュールだったように思います。今回、原稿依頼をいただいた事で、クローバー子供図書館にお世話になっていた頃を懐かしく思い起こす事ができました。

私たちは共働きだったため、休む間もなく一日が過ぎ去り、ひと息つけるのは子どもたちを寝かしつける時間でした。夫婦ともに本が好きだった事もあり、クローバー子供図書館で借りた絵本や紙芝居（クローバー子供図書館には紙芝居も大きな絵本もあるのです!!）を読み聞かせるのが、寝る前の日課のようになっていました。ひと晩に何冊も読ませると、「お願いだから早く寝てくれ!」と思う日もありました。しかしながら、情感たっぷりに読んでいくと聴いている子どもたちは言うまでもなく、読んでいる私も絵本の世界に引き寄せられ、いつの間にか癒されていたように思います。

初めてのお話を読む時の子どもたちのワクワクした表情を見るのが嬉しくて、足繁くクローバー子供図書館に通いました。新しい絵本を手にとつては「楽しんでくれるかな」と子どもたちの顔を想像しながら絵本を選ぶことは、私のワクワクになっていました。

子どもたちが学校へ行く年齢になつても、私はクローバー子供図書館へ通い続け、私の読みたい本を借りつつ、その時の子どもたちの好きそうな本を借りていました。多い時は10冊以上の本を借りて帰っていたと思います。長男には『ズッコケ三人組』シリーズや『かいけつゾロリ』シリーズ、次男は『〇のひみつ』シリーズ、三男には『おさるのジョージ』等をよく借りていました。たくさん絵本のおかげで長男と次男は本好きに育ちました。

今、子育てをしていた時期を思い出しながら原稿を書かせてもらっていると、思い出の中になくさんの絵本が出てきます。それだけ、たくさん絵本と共に私たちは過ごしてきたという事なのでしょう。子どもたちとの楽しく穏やかな思い出を作つてくれた、絵本に感謝です。

今も書店を訪れた際には、絵本コーナーを覗き、面白そうな絵本を見ると手に取ります。読んでいると自然と顔がほころび、心がふんわり温まるからです。絵本には不思議な力があります。これからも、心惹かれる絵本を見つけたら手に取り、心をふんわりと温めてもらおうつもりです。

いつか息子たちに子どもができたなら、絵本を読み聞かせ、そんな絵本の不思議な魅力を伝えたいです。その時には、いつでも情感たっぷりに読み聞かせられる自信があります。



「ズッコケ三人組」シリーズ

那須正幹/作 前川かずお/絵  
ポプラ社

「かいけつゾロリ」シリーズ

原ゆたか/さく・え  
ポプラ社

「おさるのジョージ」シリーズ

M. & H. A. レイ/原作  
渡辺茂男/訳  
岩波書店

